

日坂の由来

鎌倉高校が現在地に移転してきた頃、所在地のこゑさ小字名を津日坂といった。津というのは元来港を意味するが、腰越村の東、神戸川上流部の村名を津村といったことに由来する。

「日坂」だった江ノ電の駅名は、移転の1年半後の1953(昭和23)年8月20日に「鎌倉高校前」に改称された。

その年の12月14日に創刊された新聞部の新聞は、消えた駅名を惜しむかのように「にっさか」と命名されて今日に至っている。

「日坂音頭」が創られ、全校生徒で踊ったというのもこの頃だったろう。

この日坂というのは、鎌倉高校の門前を峠とし、七里ヶ浜と腰越中学校方面を結ぶ急坂のことである。

その名の由来は1333(元弘3)年、鎌倉攻めの新田義貞軍がこの坂を越えたことからとも伝えられるが、定かではない。

いずれにせよ、ここが鎌倉高校移転よりも遙かに前から、重要なルートかつ難路として知られていたことは、峠の頂上、すなわち鎌倉高校正門脇に3基の馬供養塔や馬頭観音塔が祀られていることから想像できる。左の馬供養塔は1736(元文元)年と古く、中と右の馬頭観音塔は明治時代のものである。

